事例
05

北広島市にし 高齢者支援センター

所在地　北広島市大曲南ヶ丘1丁目1-5
受託者　医療法人社団 翔仁会
開設　平成18年

支援センターの外観

町の素顔

北広島市　人口　市全体58,150人　西地区20,932人（R2.9.30）
高齢化率　市全体32.4%　西地区25.8%（R2.9.30）

都市機能と緑豊かな生活環境を有する。札幌市と新千歳空港の中間に位置し交通至便。クラーク博士が「ボーイズ・ビー・アンビシャス」の名言を残したゆかりの地。

北広島市では、地域住民がともに支え合う地域づくりを進めるために、地域の課題を話し合う「第2層協議体」を市内に4か所ある地域包括支援センターに所属の生活支援コーディネーターが開催しています。その協議体の構成メンバーの一つとなっている高齢者支援センター（地域包括支援センター:市内4か所配置）のうち、「にし高齢者支援センター」は、札幌市清田区などと隣接し一番高齢化率が低い地区を受持つセンターです。

この地区は、市中心部に出るより札幌市清田区に出た方が交通の便が良いこともあり、市内でも比較的若い世代が多く住んでいますが、昔から住んでいる人も多く、世代間の調和が取れた地域となっています。何か困りごとがあっても「市役所にお願いするより、自分たちのことは自分たちで解決しようという人が多いと感じています」（佐藤センター長）。同市大曲を拠点として、地域の方々に活動の場を提供している（特活）ゆとりの（次頁）の代表者もそのひとりです。

センターを開設した頃から、ふらっと立ち寄ってくれる人が多く、何か困っていそうな人を見つけたら教えてくれる人もおり、「近所の人がしばらく外出していないようだ」と80代の方が教えに来てくれたこともあるそうです。そのような環境にあることから、他のセンターから「『にしはいいね』なんて言われることもあるくらいです」（同）

支援センターのみなさん

一方、総合事業のB型の導入については、住民主体の活動は多いもののサロン運営などをB型で行うと、要綱に縛られて運営が窮屈になることを懸念しています。このことに関しては、北広島市にあるサロンの運営に対する助成金（※1）の申請や報告書の作成が、住民にとっては煩雑過ぎるため改善を要望しているものの、簡素化に至っていないことなども関連しています。

また、アクティブシニアのすそ野を拡げることについては、キーパーソン・クラスを増やすことはなかなか難しいとした上で、「地域を見ていると何かできそうな人が点在していることがだんだんわかってきます。何か困っている人に、何かできそうな人を紹介してつなぐことで、点から面へと良い関係が拡がっていくことができるのではないでしょうか」（同）とヒントを示します。

現在、同センターの受持ち地区の高齢化率は低いものの、10年後は高齢化率が高くなることがほぼ確実となっているため、他の地区も参考にしながらさらに積極的に地域に入っていこうとしています。

（※1）**北広島市介護予防拠点助成金**…高齢者の「通いの場」を提供する団体に対し、1年度につき24万円を上限として助成金を交付。

（特活）ゆとりの

所在地 北広島市大曲緑ヶ丘5丁目12-1
代表者 開発 好博
スタッフ数 約20名
会員数 約40名
会費 入会金2千円　年会費3千円
事業規模（収入ベース） 135千円（平成30年度）
法人化 平成28年

地域のあそび場ゆとりの入口と
ゆとりのボーイ

団体が設立されるきっかけは、理事長の奥さんが、認知症の人の傾聴や介護予防のボランティアとして地域の高齢者支援センターとともに活動している中で、地域の高齢者が気軽に足を運べる場所があったらいいねという話から。そんな地域の声に応えることを模索している内に、自宅開放を思い立ち、具体化に動いたことによります。

活動の拠点となった場所は、開発理事長の実家がかつて酪農を営んでいたことから、自宅や倉庫、家庭菜園など十分な広さがあり、約471坪を全面に開放することにしました。屋内（部屋ごとに特徴のある9つの活動室）はもとより倉庫（木工や冬の椎茸栽培など）、庭（芝生にピザ窯、燻製窯、木登りができたりスラックラインのできるスペースも）、畑（各種野菜や果実など）などを使って様々な活動の展開が可能になりました。具体的には、季節的な活動として「百人一首」などがあり、通常は「百歳体操」「ふまねっと」「脳トレ」「絵本の会」「麻雀を楽しむ会」など。企画ものとして「バルーンアート」「篆刻の会」大学と連携した「バーチャルボーリング」「スラックライン」など。平均年齢70歳ほどのスタッフによる「カフェゆとりの（毎週木曜日）」なども行っていました。スタート当初は「百歳体操」「ふまねっと」の介護予防を意識した活動でしたが、その他の活動は参加者や会員などから「やってみたい、あったらいいね」という声を吸い上げる形で具体化し、利用している方々の気持ちを大事にしてきました。コロナ禍の影響を受けて3ヶ月近く活動を休止していましたが、再開を望む声を受けコロナ禍の対応を工夫して「百歳体操」「ふまねっと」から、さらに「脳トレ」「絵本の会」などを順次再開して現在に至ります。利用者数は平時であれば月300人以上ですが、現在は月約200人程です。スタートした当初、ボランティアで関わっていた人たちや支援センターなどからの発信の口コミで利用者が増加してきました。利用者は原則徒歩圏内ですが、自転車やバスなどで楽しみに来て下さる方も。また、利用者の9割は女性で、男性を増やすことが課題です。

楽しくふまねっと

運営面においては、玄関のバリアフリー化工事、保険料補助など北広島市から、その他北海道社会福祉協議会からの助成など受けていますが、土地住宅等の固定資産税や冬期間の光熱費、修繕代などはまだまだ個人負担となっているのが現状です。理事長は令和2年3月で定年退職等で同法人に専従できることになったので、野菜作り、お知らせ文書作成、木工等多忙の充実した毎日です。

まだまだ理事長夫妻が活動の核として取り組んでいますが、会員の中から活動のリーダーとして活躍する人たちが育っていて法人として形ができつつあるようです。法人としてはまだまだ整備しなければならないことがたくさんありますが、コロナ禍の今は、じっくりコロナ禍後にむけての準備に余念がありません。